

平成26年度 茨城県立海洋高等学校自己評価表

目指す学校像	教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。					
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
	<p>実習や体験的な学習を重視し学習意欲の向上を図った一方で、個に応じたきめ細かな指導を行うことで、より実践的な学力のその向上が求められる。</p> <p>また、部活動を通して自主的に活動する生徒が増加している状況であるが、今後も一層推進する必要がある。さらには学校行事を充実させることで、生き生きとした学校生活を送れるようにする。</p> <p>あいさつを励行する生徒が多数存在するが、その更なる徹底等により基本的生活習慣の育成し規範意識を向上させる。</p> <p>海洋関連産業への就職率が増加傾向にある状況を、更に好転させるとともに、進学指導の充実を図る必要がある。</p> <p>地域社会とは一定の結びつきを構築しているが、種々の活動により更なる関係強化が求められる。</p>	海洋高校生として身につけるべき基礎的 技能・知識の着実な定着	①きめ細かな学習指導、授業内容の工夫、評価方法の改善を通して、海洋技術者に求められる基礎的技能・知識の着実な定着を図る。	B		
		地域に信頼され愛される海洋高校生の育成	②基本的生活習慣の確立やあいさつの徹底、身だしなみの指導を通して、地域住民や地域の関係機関との関係を一層強固にし、信頼され愛される海洋高校生を育成する。	A		
		活気あふれる高校生活の演出	③学校行事や特別活動を充実させ、活気ある学校生活を送ることにより、主体性のある人材を育成する。	A		
		地域産業の担い手の育成に向けた進路指導の充実	④企業実習や資格取得、海洋系大学への進学指導等、キャリア教育の充実を図り、生徒の職業観・勤労観を育成する。	B		
		地域との更なる連携強化	⑤地域行事への参加、近隣小中学生の体験学習の受け入れ、地域産業での実習等を推進し、地域に愛される人材を育成する。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題		
教科指導	個に応じたきめ細かな学習指導を行い海洋技術者に必要な基本的技能・知識の定着を図る	水産・海洋に関する内容を各教科の指導に取り入れる ----- 基本的内容から実践的内容にわたる実習を系統的に実施する ----- 言語活動を重視した授業を展開し、コミュニケーション能力を育成する ----- 進路実現を支援する発展的学習を取り入れる	①④ A ①④ A ①② B ①④ B	B	各教科で水産・海洋に関連する内容を考察・議論する機会を持つなど、教育活動全体で専門的コミュニケーション能力の伸長を図る。	
教科	国語	生徒の実態に応じて授業を展開し、基礎学力の向上を図り、海洋高校生として将来に生きる能力を育成できるよう指導する	副教材に漢字テキストを用い、読み書きの能力を育成する ----- 作文やスピーチの指導により、伝え合う力を高める ----- 様々な文章を読み、論理的思考や想像力を高める ----- 進路を意識した総合的な国語力を養う	① A ①④ B ①④ B ①④ A	B	文章表現法を工夫して、論理的に物事を思考できるようにする。
	地理歴史	個々の生徒の実態に応じた授業を行いながら、内容に水産・海洋関係を盛り込んで興味関心を高める	ITを取り入れきめ細かい指導の実施 ----- 個々の生徒の実態に応じた授業をしながら社会人として必要な資質を養う ----- 生徒の発言する機会や考えさせる機会を多くし生徒の持つ能力を総合的に引出す	① A ①④ A ① B	A	主体的に取り組む内容や発言する機会を増やして活動させる。
	公民	個々の生徒の実態に応じた授業を行いながら、世界における水産分野についての興味関心を高める内容にも触れる	時事的な内容を多く取り入れ進路を意識させる ----- 個別指導方法の研究や実践により理解の定着を図る ----- 生徒の発言する機会や考えさせる機会を多くし生徒の持つ能力を総合的に引出す	①④ A ① A ① B	A	主体的に取り組む内容や発言する機会を増やして活動させる。
	数学	生徒の基礎学力の向上を図り、航海算法の基礎を習得させる 生徒全員に達成感を与える授業を展開する	基礎計算能力を高めるとともに言語活動を重視する ----- 小テストを行い、その結果を分析する ----- 「何が必要か」を正確に把握し目標を設定する ----- 教材の選定についてこれまで以上に検討を重ねる	① A ① B ① A ① B	B	基礎学力向上のために、能力に差がある生徒達に合った分かる授業の工夫を一層推進する。

理科	生徒の学力に応じた授業内容を考えるとともに、水産・海洋についての内容との関連づけも考えていく	小テストなどを導入し、生徒の理解度を確認しながら授業を進める 生徒がわかる授業の工夫をし、生徒に成就感を持たせるようにする 生徒の考えをまとめ、発表する機会を作る	① ① ②	A A B	A	1学年の生徒は学力差が特に大きいため、さらに授業を工夫する必要がある。	
	保健体育	基礎耐力の向上を図ることのできる資質や能力を育てる 生涯を通じてスポーツを継続していく為の基礎知識を身につけさせる 生涯を通じて自らの健康を適切に管理する能力を育てる	生涯スポーツの獲得を意識した選択種目を設定して生徒のニーズに応える 能力別やチーム力の均等などグループ編成を工夫し楽しく活動できるようにする スポーツランキングを取り入れ、楽しみながら基礎体力の向上を目指す 能力に応じた簡易ルールを工夫し、誰でも楽しめるようにする それぞれの役割分担を明確にして責任ある行動を促す 施設や用具の安全で適切な使用方法を指導徹底する 内容を精選し自分と他人の健康を守るために必要な知識を重点的に学習させる 身近な問題をあつかったり体験的学習を充実させ実生活に活かせるようにする	①③ ① ① ① ② ① ①② ①④	A A B A A A A A	A	集団行動を通して基本的な生活習慣やマナーを確実に身につけさせる。 体力向上に向けてランニングや筋力トレーニングを積極的に取り入れる。 より安全を配慮した授業を実施する。
芸術	生涯を通じた書道の楽しさや奥深さを知ってもらう	個々の生徒の実態に応じた書道を毛筆にて指導する 丁寧な筆字を目指したペン習字をきめ細やかに指導し、進路実現を支援する	① ①④	A B	B	硬筆教材の活用により、一層充実した授業の展開を図る。	
	外国語	生徒の実態に応じた授業の展開と、個人レベルまで学習をサポートする教科指導を進める	水産系高校の生徒として知っておきたい知識（近海の魚の名前や船に関するもの、または海事英語との連携）の習得を目的とした授業を取り入れ、定期考査へも反映させる 生徒の習熟度に合わせた授業を展開するために、生徒の習熟度と3年間の教育課程を見越して独自のワーク教材を系統立てて作成する 実践的コミュニケーション能力の育成を目指し、平易な英語を使って生徒ができるだけ多く発語し、自己表現できる場を増やしていく	① ① ①④	A B A	A	英語の発話の機会を一層増やしていく。 学び直しの生徒への指導の充実を図る。
	家庭	自身の自立と地域の共生を目指す	家庭や地域の生活に関心を持たせ、生活の充実・向上を図る 実習を通じて、基礎的・基本的な技術を身につけさせると同時に、衣・食・住について生きるうえで必要な知識を身につけさせる 学習を通じて領域に関わらず水産に関する内容を扱い、日々の生活に結びつける	① ① ①	A A B	A	生徒の興味・関心を一層引き出し、卒業後の生活にも生かせるようにする。
水産	生徒の興味関心を喚起する専門教育を実施する 実践的な実験・実習を実施する	具体的・実践的な教材を精選し、海洋技術者に求められる技術や知識をわかりやすく指導することで専門分野についての学習意欲を喚起する 実験・実習について、個に応じたきめ細かな指導により基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、就業に結びつく実践的実践的内容についても取り組むことで、生徒の達成感を育み、水産・海洋分野への就業意欲を育てる	① ①④	A A	A	最新技術等の把握に努め、授業に反映させる。 企業実習等、外部指導者から得た知識・技術を校内の実習において確認・発展させる機会を持つと共に外部指導者の評価を校内での教育に反映させる方策を研究する。	
	生徒の適性と将来を見据えた専門教育を実施する	専門教育に関わる資格取得を奨励・推進し、生徒の適性と将来を見据えた専門的かつ総合的な学習指導を地域との連携を通して実施する	①④⑤	B			
教務	毎日の学校生活に充実感を覚える教育の推進	各教科の指導内容が有機的に水産・海洋に結びつく教育方法と評価規準の研究	①④	B	B	水産・海洋に対する興味・関心を一層高めるための各教科間の連携や指導・評価方法を研究する。 普段の学習内容を企業実習等で確認できるよう、学習内容を積極的に情報発信する。	
	学習活動を通じた人間味あふれる生徒の創出	生徒が達成感を感じられる教育方法の研究	①	A			
	自らが進むべき道をしつかりと見据えられる教育の推進	実習科目を中心とする体験的学習の推進を通じた人格の形成	①②	A			
	地域に貢献する生徒の創出	就業に結び付く、より実践的な知識・技能の獲得を推進する教育の研究	①④	B			
		資格取得の奨励	①	B			
		体験学習及び企業実習等の一層の推進	①②④⑤	A			

特別活動	生徒会活動の自主的な運営	生徒による学校行事の主な企画、運営	③	B	A	地域の活動との連携を図る。 部活動のさらなる充実を図る。
	部活動の振興	生徒による校外活動 部活動の活動率の向上 部活動の指導者の育成及び講習会への参加	③⑤ ③ ①③	A A B		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	さわやかマナーアップ運動を通じた規範意識の高揚・公共マナーの向上	①②③⑤	A	A	あいさつや身だしなみの重点的指導により、基本的な生活習慣は定着しつつある。次年度においても継続的に指導していきたい。 地域に愛され信頼される海洋高校生としての自負を持たせ、主体性の育成へと繋げていきたい。 配慮が必要な生徒に対する指導について、職員の共通理解、協力体制、関係機関との連携等に配慮し、継続的に支援していきたい。研修会も継続する必要がある。
		制服の正しい着用、校歌の斉唱等による愛校心の醸成、帰属意識の向上	①②	B		
		家庭訪問・面談・教育相談・アンケート調査等によるいじめや問題行動の未然防止・早期発見・早期解消	①③	A		
		関係機関と連携した交通安全・薬物乱用防止・携帯電話マナー講話等の実施	②	A		
		地域や家庭と連携した下校路巡回・列車添乗指導による交通・乗車マナーの向上	②	A		
	登校指導・校門立哨での生徒への声かけ指導の実施	①②	A			
あいさつ・身だしなみの徹底	授業・集会等開始時における服装・頭髪等の継続的指導 式典・集会・授業等における礼法指導の徹底	①② ①②	A B			
問題に対する迅速な対応	生徒指導実践サポート事業による生徒指導体制の充実 報告・連絡・相談の徹底 教育相談・学習障害等の職員研修会の実施	①②③ ①②③ ①③	A B B			
進路指導	地域産業の担い手育成	地域企業との協力による企業実習の実施	②④	A	A	地域の漁業・水産業、船舶、港湾関連企業と連携し、企業実習を継続し就職に結びつける。就職・進学共に、学年ごとの目標を明確にした計画的に指導し早い時期から自らの進路に関心を持たせる。また、三者面談や進路ガイダンス等で家庭と連携し、進路実現を図る。
		本校の特色に即した求人企業の開拓 県内求人企業の開拓	④ ④	B A		
	就職指導の充実	各部署との協力による就職試験対策及び面接指導の実施	②④	B		
	進学指導の充実	学年や各学科、各教科との連携による学習指導や面接指導等の実施	①	B		
	進路情報の提供ときめ細かな進路指導	本校の特色に即した進学希望者に対する学習指導及び情報の提供 各学年での進路ガイダンスの実施と各クラスでの進路講話の実施 進路の手引きや進路通信等による進路情報の提供	①④ ① ①	A A B		
渉外	P T A活動の活性化	委員会活動の充実と活性化 広報紙及び学校通信による保護者、地域住民への広報活動	③ ②⑤	B A	B	各委員会への参加数の増加を図る。
図書	蔵書の整理	蔵書のデータベース入力	①	A	A	図書委員を活動させることができるようになってきたので、さらに活動を活性化させる。
		内容が古くなった図書の選別及び廃棄作業 有効的な購入図書の選定	① ①	A A		
	生徒及び職員の図書室の利用促進	昼休みの開館 放課後、定期試験中の放課後の開館 長期休業中の計画的開館	①③ ①③ ①③	B A A		
		図書委員会の活性化	生徒図書委員への適切な指示、自主性の育成	③		
保健衛生	健康に対する意識の向上と保健指導の充実	健康診断と効果的な事後指導の実施	①	A	A	健康教育の一層の推進。 地域関係機関との連携を強化しながら学校安全計画の実施を目指す。
		各種学校行事における保健管理・指導の徹底	①③	B		
		生徒の実態に合わせた保健だよりの発行	①	A		
		学校環境衛生検査の実施	①	A		
		生徒保健委員会の活性化	①③	B		
地域の関係機関・団体との効果的な連携	⑤	A				

	教育相談の体制を確立する	教育相談の知識・技術の向上 ①③	A		
		クラス担任との連携 ①③	A		
		教職員の研修を実施 ①	A		
情報	生徒及び職員の情報機器利用促進	情報機器の維持管理 ①	A	A	各方策の迅速な処理を推進する。
		ネットワークの管理 ①	A		
		メールアドレスの管理 ①	A		
第1学年	個に応じた学習指導を充実し、基礎的な内容を身につけさせる 望ましい集団生活を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る 家庭との連携を密にする	授業内容の精選を図り、生徒一人一人に即した授業を展開し、基礎学力の習得を目指す ① 生徒指導部との連携及びLHRや学年集会を通して基本的な生活習慣に対する意識の向上を図る ②	A  C	B	教科担当者会議の定期的実施する。 生徒指導部との連携を図る。 規範意識の向上を図る。
		1学年全家庭を対象に家庭訪問を実施し家庭との連携を密にする ②	A		
第2学年	基本的な生活習慣を確立させ、社会に出るために必要な資質を身につける 基礎学力の定着を図るとともに将来の進路を見据えた授業・実習等を実施する 学校行事等への積極的な参加を促進する	時間厳守やあいさつの励行、言葉づかい・頭髪・服装について学年の共通認識のもとに指導を行う ② 授業を通して国語力や計算力等の基礎学力を身につけさせる ① 専門教科等を通して将来の進路に必要な知識・技術を身につけさせる ① 企業実習を通して将来の進路への意欲を向上させる ④ 修学旅行の充実を図るため、年間を通して見学地の地理や歴史、文化等についてよく理解させる。 ①③ 参加することの大切さや充実感を理解させ、海洋祭（文化祭）やクラスマッチへ積極的に参加させる ③	A  B A A B A	A	基本的な生活習慣の向上は成果が上げられたが、次年度に向けさらに推進したい。 基礎学力の向上は著しい成果は見られないが徐々に向上している。 次年度、進路決定に向け計画的な指導を推進する。
第3学年	生徒の進路目標を明確にさせるとともに、目標の実現に向けた指導の充実を図る。 社会人として必要な生活態度やマナーを身につけさせる。 最上級生としての自覚を持たせ、率先して学校行事や部活動に参加させる。	進路希望調査や二者面談・三者面談を実施する。また、各部署と協力し、基礎学力の向上や面接対応能力の向上を目指す。 ①② 時間の厳守や挨拶の励行、言葉遣い、頭髪・服装について、社会人となる意識を持たせながら指導を行う。 ② 特別活動やホームルーム活動を通して、最上級生としての自覚を持たせ、学校行事や部活動に積極的に参加させる。 ③	A A A	A	できる限り早期に進路目標を明確にさせ、各自の希望進路に応じた指導を計画的に実施する。

※評価基準 A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない